

芸術文化だより

第57号

令和4年3月25日

発行者

習志野市芸術文化協会

会長 中谷 時男

編集長 小笠原仁仙

◆習志野市芸術文化協会／広報◆

題字 吉原 聚堂



2022. 茜浜の初日出

今年も立春となり、紅梅が青空をバックに咲きはじめました。テレビでは新型コロナウイルスの感染者が、過去最高の十万人を超えたと報じています。会員の皆さまもコロナ感染に不安を感じながら、お過ごしのことと思います。思い返すと、令和二年一月新型コロナウイルス感染者の発生が報じられてから、感染者拡大の波は六波、四回にわたり緊急事態宣言が発出されました。令和三年は半年以上、緊急事態宣言が出されてきました。そのため、公民館等の公共施設の使用中止や使用人数制限等諸々の制約のなか、会員の皆さまは、感染防止に配慮しつつ、創意・工夫してそれぞれの分野で活動されていることと思います。芸術・文化活動は、発表や展示をすることで、それを多くの方々に鑑賞していただくことが何よりも嬉しいことであり励みになります。そんな活動発表の場が、毎年春に開催する芸術協主催の「芸術祭」です。



楽しみな「芸術祭」

習志野市芸術文化協会副会長

澤田 弘

今年も、昨年に引き続き第三十八回芸術祭が、四月十五日から十七日、習志野文化ホールを中心会場として開催されます。春の民謡芸能大会やアロハフェスティバル、華道展、絵画展、書道展、蒐集展、和紙ちぎり絵展、陶芸品のチャリティーバザー等があります。どうぞ足を運んでください。会員の皆さまもご承知の通りコロナ禍の中で開催するイベントは、いろいろ工夫が必要です。芸術協も共催している、昨年末に開催された「第四十三回習志野第九演奏会」は、これまでに無い苦労がありました。密を回避するため、合唱団員は、これまでの三分の一に減らしました。勿論マスクは外せません。演奏会当日は、手指消毒、検温、チケット半券に名前と連絡先の記入、会場内の整理などに人手が必要となりました。音楽協会や習志野市市民カレッジ卒業生の皆さん、その他関係者の皆さんがボランティアで支えてくださいました。元の状態にいつ戻れるのか分かりませんが、私たちには、趣味や楽しみがあります。仲間や支援してくださる方も大勢います。元氣、陽氣、勇氣、根氣、強氣を持って、このコロナ禍に打ち勝ちましょう。